



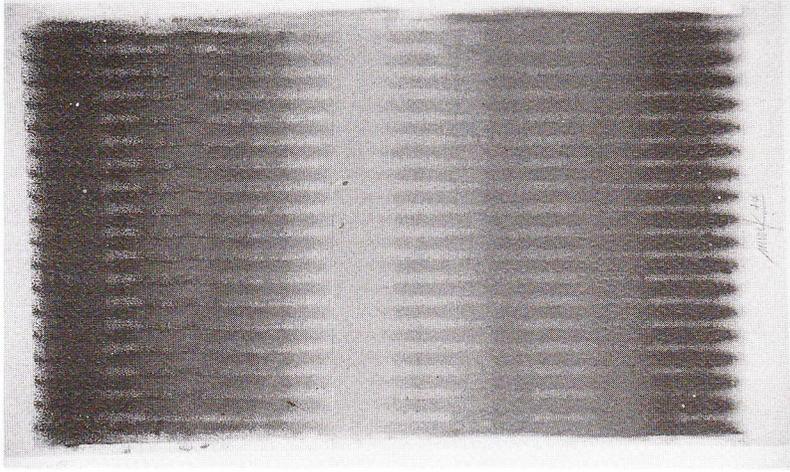
私たちがとまりとまり今日の美術は、これまでのいかなる時代よりもめまぐるしく急激な変貌をとげています。科学技術の高度な発達、価値観の多様性といった現代社会の状況はこうした美術とはけって無関係ではありません。新しい技術の導入や他分野のメディアとの結合はまったく新たな世界を創り出し、美術に対する概念も著しく変えられました。

このことは素描においても同様です。素描はそれ自身魅力を持ったものとして自律を始め、創作活動における一つの重要な要素として認められるようになりまし。また、新しい素材と美術に対する新たな認識は素描の領域を拡大しました。その様式と機能は多様です。

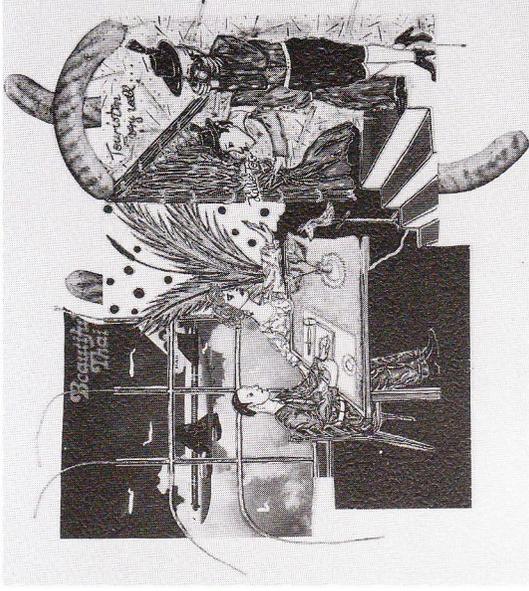
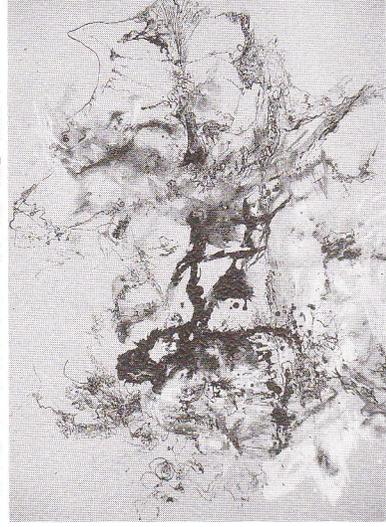
もちろん、“描く”ことは最も基本的な要素ですが、文字や写真の使用をはじめとする様々なメディアや素材を用いた素描作品があります。そしてその表現するものは、時には作品の技術的な計画図であったり、概念的な思想の説明であったり、行為の分析・記録であったり、または、原初的な精神内面の吐露であったりします。

今回の展覧はこのように従来の枠をはずし様々な姿をみせる素描の陳列です。現在ドイツ連邦共和国で活躍している43人の作家による123点の素描作品で構成されています。作品の制作期間は1970年代から80年代初めまでのほぼ10年間にしぼられています。内容は1945年以降の美術動向をふまえてドイツの現代美術の全体を通観できるものです。

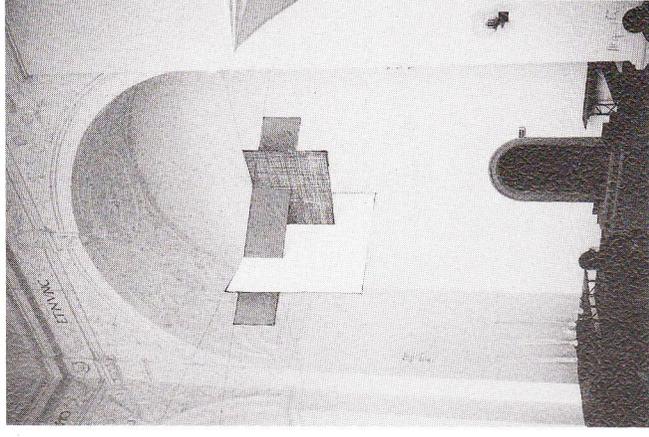
本展は次の8つの部分から構成されています。  
 (1)第2次大戦後フランスに生まれた“熱い抽象”と呼ばれた芸術運動であるアンフォルメルを継ぐ作品(アンフォルメルとアール・ブリュの流れ)(2)デュッセルドルフで結成された前衛芸術運動“ゼロ”グループの光や運動に関心を示した作品(“ゼロ”の流れ)、(3)システマ化して画面を構成した作品(素描と記号のプログラム)(4)公共の場所や空間の中に設置したり、その環境そのものを設定した作品(建築と空間のプロジェクト)(5)彫刻の制作過程でのひらめきをとおして平面化した作品(南西ドイツの彫刻家による素描)(6)時には皮肉をまじえ芸術家自身の



ベルナルト・シュルツェ「3/12/55」1955年



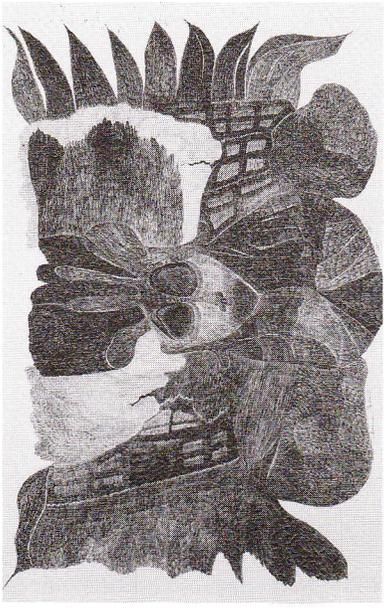
ハンス・ヘルピッヒ「“モビール空間彫刻”を描写した状況写真」1981年



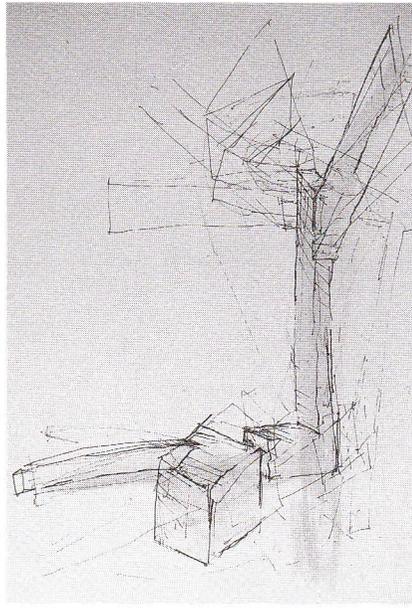
内面や自分と社会の関心を追求した作品（目画像）  
 (7)現代の社会状況における精神の内面性を表現主義的に表わした作品（個人と社会）(8)身の事物、風から触発された作品（芸術と人生）

今日の美術は限らない国際性と同時性を持っています。これはドイツの美術においても例外ではありませんが、と同時に、幻想性、表現主義あるいは自然との感応といったドイツの伝統が生きていることのみができません。今日の美術の中でドイツの現代美術は重要な役割を果たしていますが、今まで充分我が国に紹介されているとはいえません。本展は現代ドイツの美術を概観しその表現と感性をみようとするものです。

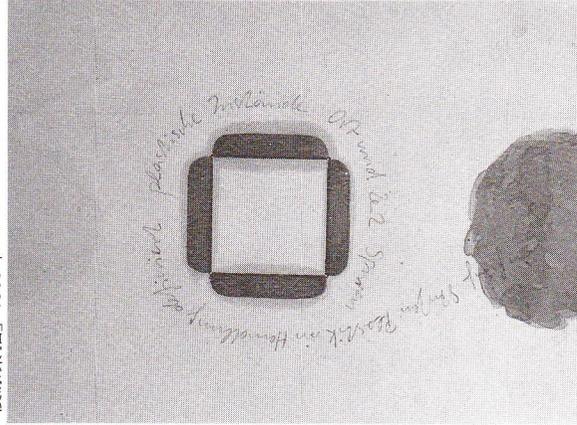
ウルズラ「死霊の肖像」1980年



フランツ・ベルンハルト「B-81 - 15」1981年



フランツ・エアハルト・ヴァルター「復原素描」1969年



ゲオルク・バゼリッツ「風景」1976年



ベルナルト・シュルツエ  
 ウルズラ

2. "ゼロ"の流れ

ハインツ・マック

3. 素描と記号のプログラム

アッティラ・コファクス  
 マンフレート・モーア  
 ハイヨ・ハンゲン  
 ヴォルフラム・エルバー  
 ルーネ・ミールツ

4. 南西ドイツの彫刻家による素描

エーリッヒ・ハウザー  
 クリストフ・フライマン  
 フランツ・ベルンハルト

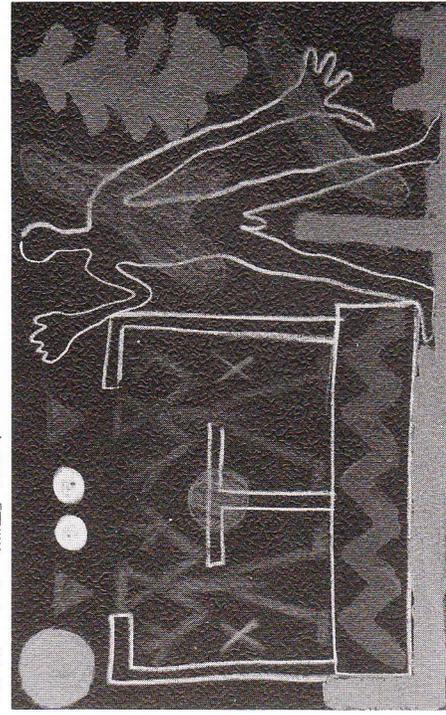
5. 建築と空間のためのプロジェクト

オットー・ヘルベルト・ハイエック  
 パレルモ  
 ハンス・ヘルピヒ  
 フランツ・エアハルト・ヴァルター  
 ハンスイェルク・フォート

6. 自画像

ディーター・ロート  
 ユルゲン・クラウケ  
 ヨアヒム・シュメッタウ  
 ヘルベルト・ファルケン

A. R. ペンク「無題」1980年



ヴェルナー・クナウブ  
 ベーター・ギレス  
 アントニウス・ヘッケルマン  
 フランツ・ヒッツラー  
 ユルゲン・マイヤー  
 フォルカー・タナート  
 A.R. ペンク  
 フリートリッヒ G. ショイアー  
 ヴォルフガング・ペトリック  
 クラウス・フォーゲルゲザング  
 ハラルト・ドゥーヴェ  
 チャーリー・バナナ  
 マルセル・オーデンバンハ  
 ヨゼフ・ボイス

8. 芸術と人生

テオ・ランバーティン  
 ゲオルク・バゼリッツ  
 マックス G. カミンスキー  
 クリスティアナー・メーター  
 マルテ・ザートリウス  
 カール・ボールマン  
 パコ R. クネラー  
 ホルスト・ミュンヒ  
 アブラハム・ターフィット・クリスティアン

## 講演

6月21日(土) 午後2時～  
「ドイツの素描芸術—デューラーから現代へ—」  
成城大学教授 千足伸行氏

7月5日(土) 午後2時～  
「現代ドイツの素描」  
東京国立近代美術館 松本透氏

## 美術相談

専門知識と経験豊富な美術作家を招き、みなさまの文化活動の援助になればと美術(制作)相談室を開設します。

相談日・相談美術作家

6月22日(日) 午後1:00～4:00  
洋画家 磯村敏之氏 / 日本画家 飯田満佐子氏

7月6日(日) 午後1:00～4:00  
洋画家 宮田翁輔氏 / 日本画家 滝沢具幸氏  
申込方法・事前に電話で相談内容をお知らせください。

## 美術映画会

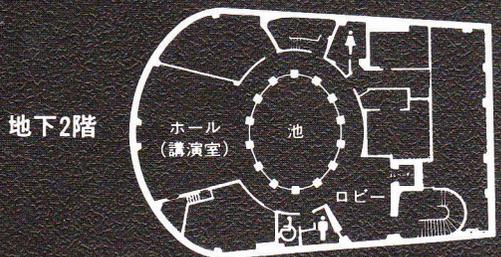
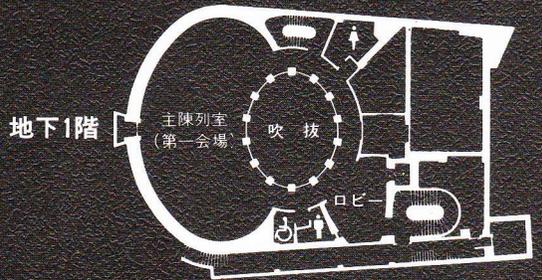
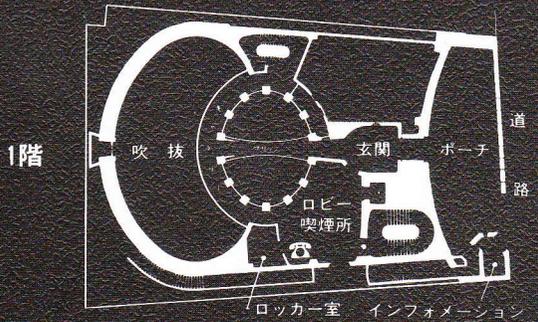
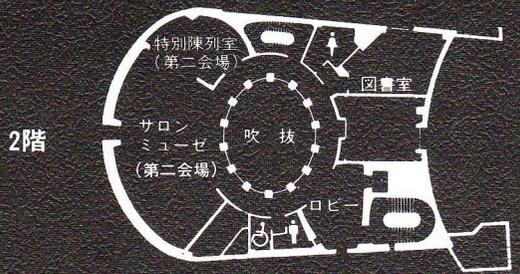
美術に関する映画フィルムを用意して、映画会を開催します。どうぞ気軽に御参加ください。

6月15日(日)、29日(日) 午後2:00～2:30  
ドイツ実験映画  
ヴォルフ・カーレン「ラシャの椅子:ヒダの空間分節」他  
W&Bハイン「S&W」他  
7月20日(日) 午後2:00～3:00  
「幻視の画家 ポッシュ」

会 期 昭和61年6月10日(火)～7月20日(日)  
※会期中陳列替をします  
休 館 日 第2日曜日及び他の週の月曜日、祝日の翌日  
6月/16日(月)、23日(月)、30日(月)、  
7月/7日(月)、13日(日)、  
開館時間 午前9時～午後5時(ただし、入館は4時30分)

入 館 料

	個人	団体(20人以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円



## 案内図

